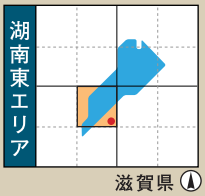
史跡

国指定

# 廃少菩提寺石多宝塔および石仏

（はいしょうぼだいじせきたほうとうせきぶつ）

甲西町菩提寺　大正15年10月20日指定




少菩提寺の寺名は、野洲川を挟んで対岸にそびえていた金勝山大菩提寺に対するもので、天平3年(731)に良弁僧正により開基されました。古くは30以上もの建物のある大伽藍でしたが、元亀年間（1570〜73）に織田信長と六角氏の戦渦に巻き込まれ、廃寺となりました。残された多宝塔や石仏が往時の姿を語りかけます。

| 当時のできごと | |
|---|---|
| 773年 | 良弁没する |
| 1241年 | 藤原定家没する |
| 1571年 | 信長、長島の一向一揆を討つ |

## 少菩提寺の遺構

史跡地は、菩提禅寺の境内と、その西の林の中にあり、石多宝塔のある部分、地蔵菩薩像のある部分、閻魔像のある部分の3カ所に分かれています。少菩提寺の繁栄を偲ぶ遺品は、この三つの石造物だけですが、周辺にはかつて坊が建っていたであろう平坦地が多数残っています。

残された石多宝塔は、県下に2例しかない特殊な形態を持ち、規模が大きく造立年が明らかであることから重要文化財に指定され、かつ、歴史に名をとどめる大寺院を証明するものとして、石仏と共に史跡に指定されています。



石多宝塔



閻魔像

## 石多宝塔

石多宝塔は、花崗岩製の総高4.5mの普会塔で、上層の屋根は軒下に2段の斗栱形を造り出しており、錣葺（しころぶき）の形態を示します。2重の基壇に置かれた方形軸部や、上層の持ち送りの丈が高いため、全体に細長い感じを受けますが、近づき仰ぎ見ると、上層の造形は、壮大かつ力強さを感じさせるものとなっています。

軸部には「仁治二年辛丑七月■日　願主僧良全　施主日置氏女…」の銘文が刻まれ、この塔が、1241年に作製されたことがわかります。さらに、この下部には十数名の寄進者の名前が刻まれています。

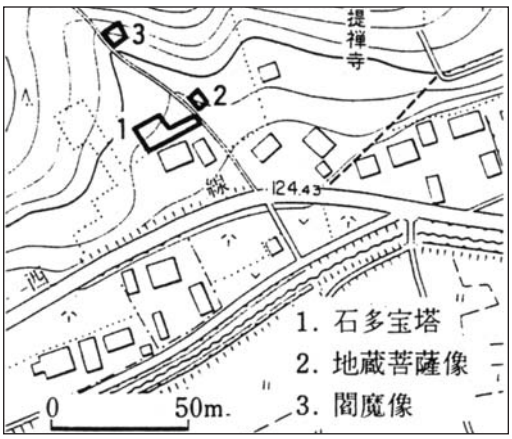
## 閻魔像と地蔵菩薩

閻魔像は地元では「血ふき地蔵」と呼ばれていますが、中央に閻魔像が、左に阿弥陀像が、右に地蔵像が陽刻され、その下段左に僧形が、右に地蔵が彫られています。また、下段中央には「浄西院秀阿弥陀仏行大徳宗舜敬白」の銘文があり、室町時代の作とされています。

地蔵菩薩像は3体あり、中尊は短い錫杖を持ち、頭上に笠石を乗せます。左尊は合掌しています。右尊は蓮蕾と宝珠を持ちます。共に南北朝頃の作とされています。



地蔵菩薩像




史跡地の位置

### 関連する文化財

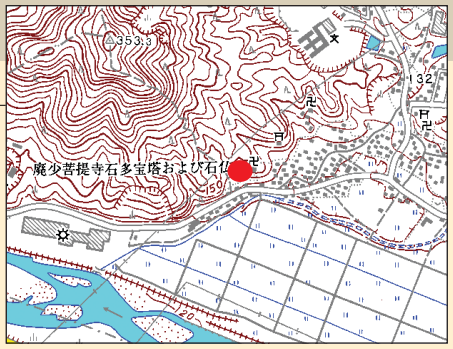
| | |
|---|---|
| 金勝寺（栗東市） | 湖南の山岳寺院の中心的存在。多数の文化財を有する |
| 石塔寺（蒲生町） | 石塔を多数安置する寺院。特に百済様式を色濃く示す三重塔が有名 |
| 正福寺石造宝塔（甲西町） | 廃少菩提寺と同じ形式の石塔。平安時代の作とされる |

### もっと深く知りたい

甲西町教育委員会　☎0748-72-1290　甲賀郡甲西町中央1-1

**廃少菩提寺石多宝塔および石仏へのアクセス**

JR草津線　石部駅下車
名神高速道路　竜王インター




【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月